

(後期) 4 年次・必修

**【概要・目標】**

患者が医療に求めているのは納得である。単なる治療では医学的情報と技術を与えることはできても納得は与えられない。納得を与えるのは看護である。正しい看護によって医療コミュニケーションが成立することができる。本講義では、医療の中での看護の意味を考える。

また、医療現場における人間関係を構築するのに必要なコミュニケーションの理論についての解説も行うが、今年度については、学生から十分に学べなかったという指摘のある、発達心理学的なアプローチについて、学生自身が臨地実習の経験を踏まえて相互に自主的に学ぶ機会を特別に設ける。

**【授業内容・スケジュール】**

	担当者
1) 2) 医療と人間	有田
3) 4) 循環器病の変貌から未来を見据えて	有田
5) 6) 臨床の視点－医療人と患者（家族）のふれあい	有田
7) 8) インフォームド・コンセント：臨床の現場から	有田
9) (グループ発表の準備)	増田
10) 11) 12) 13) 学生が発達心理学に基づいて医療コミュニケーションを講義する	増田
14) 社会心理学に基づいたキャリアアップのための医療コミュニケーション	増田
15) コミュニケーション論に基づいたキャリアアップのための医療コミュニケーション	増田

**【評価】**

2名の担当者が50点満点で個別に評価したものの合算が最終成績として報告される。

【有田担当分】筆記試験（70%）、授業への参加態度（10%）、提出物（20%）

【増田担当分】期末試験(持ち込みなし)における個人得点(48点満点)に、発表責任担当グループ(原則20名)が受け取る「学生担当授業成果係数」(最低0.50から最高1.50)を掛けた数値の小数点以下第1位を四捨五入した整数値を素点とする(50点を超過した点数は切り捨て)。期末試験は問題選択式記号選択式試験であり、24問出題される(誤答は0点でなく減点)。学生が担当する4回から各6問出題される。うち2問は授業を担当したグループの出題リスト(20問作成が条件)から採用される。授業内容の指導は担当グループの学生が行う。「学生担当授業成果係数」は、自グループが担当した回に関連する6問のうち、他グループ学生の選択率2位と3位の問題の全解答者正答率のそれぞれ4分の1の値を合算したものである。尚、自グループが責任を持つ講義内容に関する設問の全てに解答しなかった場合は採点対象外とする。増田担当初回(9月)で配布予定の授業運営用シラバスを参照のこと。

評価責任者：増田匡裕教授

**【教科書】**

【増田担当分】無藤ら「発達心理学」培風館 2014

鈴木ら「生涯発達心理学」有斐閣 2016

**【推薦参考図書】**

【有田担当分】中村雄二郎「臨床の知とは何か」岩波新書

**【その他】**

【有田担当分】座学の講義形式でなく、課題を与えて自ら考える講義形態で行う。

【増田担当分】2021年度はショートペーパー課題を主とする形式に戻す。

---

---

**保健行政論**

松本政信 非常勤講師  
小野美樹 非常勤講師  
形部裕昭 非常勤講師  
雑賀博子 非常勤講師  
土生川 洋 非常勤講師

---

**(前期) 4年次・必修**

---

**【概要・目標】**

地域保健法において位置づけられた保健所の役割について理解するとともに、地域における関係機関の役割についても理解を深める。

また、地域の衛生行政に関する法規についても学び、将来の地域保健の担い手として実践するための基礎知識を習得する。

---

**【授業内容・スケジュール】**

- |                |                        |
|----------------|------------------------|
| 1 地域保健法の概要     | 〈 松本 政信 (和歌山県湯浅保健所長) 〉 |
| 2 結核対策         | 〈 雑賀 博子 (和歌山県岩出保健所長) 〉 |
| 3 精神保健福祉行政     | 〈 小野 美樹 (和歌山県海南保健所長) 〉 |
| 4 たばこ対策と公衆衛生行政 | 〈 形部 裕昭 (和歌山県御坊保健所長) 〉 |
| 5 食品保健         | 〈 形部 裕昭 (和歌山県御坊保健所長) 〉 |
| 6 感染症対策        | 〈 土生川 洋 (和歌山県橋本保健所長) 〉 |
| 7 これからの保健所像    | 〈 松本 政信 (和歌山県湯浅保健所長) 〉 |

---

**【評価】**

筆記試験 100%

---

**【教科書】**

指定なし

---

**【推薦参考図書】**

- 一般財団法人厚生労働統計協会編「国民衛生の動向」(最新版)
- 吉田修(監修)禁煙科学 文光堂 2007
- 結核予防会「医師・看護職のための結核病学シリーズ」第1巻、第2巻、第3巻①、第4巻②、第5巻
- 重松逸造「日本の疫学 第1版」医療科学社 2006
- 融道男・中根允文・小見山実監訳「ICD-10 精神および行動の障害 臨床記述と診断ガイドライン」医学書院 最新版
- 柳川洋・児玉 和紀(監訳)「疫学公衆衛生研究の潮流」一般財団法人日本公衆衛生協会 2004
- 「DSM-IV-TR 精神疾患の分類と診断の手引き」医学書院
- 岸玲子監修、NEW 予防医学・公衆衛生学 改訂第4版、南江堂
- 津田敏秀著、市民のための疫学入門、緑風出版

---

**【その他】**

メールアドレス：松本 (matsumoto\_m0025@pref.wakayama.lg.jp)  
小野 (ono\_m0012@pref.wakayama.lg.jp)  
形部 (gyobu\_h0001@pref.wakayama.lg.jp)  
雑賀 (saika\_h0010@pref.wakayama.lg.jp)  
土生川 (habukawa\_h0001@pref.wakayama.lg.jp)

---

---

**(通年) 4年次・必修**

---

---

**【概要・目標】**

概要：統合実習Ⅱにあたって、学生は主体的に選択した実習分野の活動を目標化し、活動後の評価・考察を通して管理的な視点が成長するように学ぶ。

- 目標：1) 選択した分野の実習活動のレディネスを学生自ら設定する(事前)。  
2) 実習後、学生は、評価・考察を通して学び得た保健看護管理の問題意識を概念化する。  
3) 概念化した学習成果をプレゼンテーションし、共有する。  
4) 保健看護管理における看護職者の責務・権限・自律性を理解する。

---

**【授業内容のスケジュール】**

- 1) 事前ガイダンス
  - ・実習方法の概要および関連する実習施設や受け入れ状況について説明を受ける。
- 2) 主体的学習活動の計画立案について
  - ・保健看護管理に関する問題意識を明確にする。
  - ・学習活動を具体的に目標化し、実習施設を選択する。
  - ・実習計画を立案し、実習施設との交渉及び調整を図る。
- 3) 事後について
  - ・目標化した学習活動の結果について評価・考察する。
  - ・学生主宰による学習成果発表の場を企画し、ディスカッションを通して管理的視野を広げる。
  - ・個々にレポートを作成する。
- 4) 演習の時期・時間は、別途通知する。

---

**【評価】**

演習目標(評価表)に沿って、レポートおよびワークショップ等の参加状況を総合して評価する。  
(個人のレポートには、演習自己評価表を添付して提出すること)

---

**【教科書】**

特に設定していないが授業資料および参考文献を活用すること

---

**【推薦参考図書】**

随時紹介する

---

**【その他】**

学習サポート：統合実習Ⅱ、事前事後の学習活動については、担当教員との報告・連絡・相談等でレディネスを高めるようにする。

